

やまぐち外国語教育だより vol. 6

山口県教育庁義務教育課

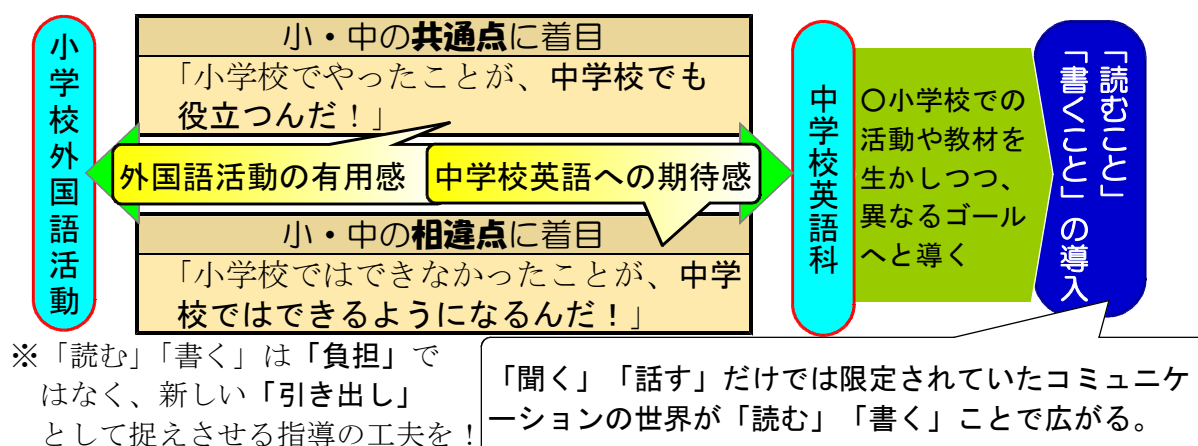
去る2月22日（金）に、1年間の実践を振り返る機会として、県内各中学校及び、小学校、高等学校の教員130名の参加のもと、「平成24年度中学校英語教育研修会」を開催しました。

研修会では、国立教育政策研究所の平木裕教育課程調査官に、「英語教育における中学校の役割と授業実践の在り方」と題して、新学習指導要領の趣旨の確認、小中接続のポイント、中高連携の在り方、指導と評価の工夫等についてお話しただくとともに、小中連携、中高連携、授業実践について各1校ずつ事例発表をしていただきました。

平木裕 教育課程調査官の講話から…

🌸 小中連携ここがポイント！

- 外国語活動の有用感と、中学校英語への期待感をもたせることが大切



実践発表から…

実践事例発表では、それぞれ、大変参考になる実践が発表されました。ここでは、そのアウトラインを紹介します。

■ 小中連携の実践：萩市立見島中学校 梅津麻由美 教諭

小学校と中学校の内容を結び付けた言語活動を設定し、綿密な単元計画に基づいて、小学校5・6年生と中学校1年生の交流授業を実施。中学生が活動の進行役を務めること等で、積極的なコミュニケーション活動につながった事例の紹介。

■ 中高連携：周防大島町立大島中学校 大川健志 教諭

高等学校と町内4中学校による連携型一貫教育を実施。中高のTTを通して得た情報を、授業改善やカリキュラムの連携にどうつなげるかを模索。高等学校入学時に生徒に身に付けさせる力を明確化し、それに基づく取組を実践。

■新学習指導要領の趣旨に沿った授業実践：
下関市立川中中学校 福岡栄治 教諭

視覚・聴覚に訴えるICTの活用により生徒の学習への興味・関心、意欲を高める指導の在り方。提示する写真や絵を精選したり、言語使用場面の設定を工夫したりすることにより、十分な口頭練習やスムーズな言語活動につなげる例の紹介。



※ 詳細は、研修会で発表された資料を義務教育課HPにアップします。

参加者アンケートから...

■ 参加者の皆さんに答えていただいたアンケートから、主な意見を紹介します。



グループ協議「時数増に伴う指導の工夫について」

小中連携推進上の課題

- 小中の日程の調整
- 打合せ時間の確保
- 小小連携により足並をそろえる難しさ

この他、連携が単発的になってしまう等の意見もありました。小学校と中学校、小学校同士の管理職による計画的な小中連携の枠組みづくりが大切です。

中高連携推進上の課題

- 学校間の地理的距離
- 打合せ時間の確保
- 連携の必要性に対する教員の意識
- 複数の高校への進学により連携相手校を決める難しさ

連携の必要性に対する教員の意識啓発が必要であるようです。相互の授業の様子が理解できるよう、まずは、中高とも複数校が授業公開や研究授業の日程を共有したり案内を出したりするなどの工夫から始めることが大切です。

小学校外国語活動を経験した中学生はどう変わった？

○ 大半を占めていた肯定的意見

- リスニング力が向上した。 英語を話すことに抵抗感がなくなった。
- 英語での指示や質問に対する反応がよくなった。 語彙が豊富になった。
- コミュニケーションへの関心・意欲が高まった。 ALTと憶せず話すようになった。
- 英語の活動に慣れており、スムーズに活動が行えるようになった。

小学校外国語活動がめざす、「コミュニケーション能力の素地」を育てる実践が一定の成果を上げていると捉えられているようです。

▲ 解決すべき課題に関する意見

- 英語に対する苦手意識をもって入学する生徒がいる。
- 書くことに対する苦手意識をもつ生徒が増えた。

小学校外国語活動、中学校英語科それぞれが、果たすべき役割を自覚して課題解決に取り組んでいくことの重要性が伺える意見です。